



盛岡市における町内会等への加入促進に関する協定を締結しました！



市は、1月13日（金）に町内会・自治会未加入世帯の加入促進を図るため、（一社）岩手県宅地建物取引業協会、（公社）全日本不動産協会岩手県本部、盛岡市町内会連合会、玉山地域自治会連絡協議会及び盛岡市の間で協定を締結いたしました。

今後は、町内会・自治会加入促進の働きかけ、情報共有、各般の施策を協力して行います。詳細については、市民協働推進課地域活動係（☎626-7500）までお問い合わせください。

【松園地区】 LED8万個分のイルミネーションが松園の夜を彩りました！

松園地区自治協議会同地区まちづくり委員会（吉田哲男会長）は12月7日（水）から11日（日）の期間、松園中央公園を会場に「松園光のファンタジー」を開催しました。期間中、LED8万個分のイルミネーションが松園中央公園を彩り、訪れた人々の目を楽しませました。来場者は5千人以上にのぼり、テレビで中継されたり新聞に取り上げられたりするなど大きなにぎわいを見せました。



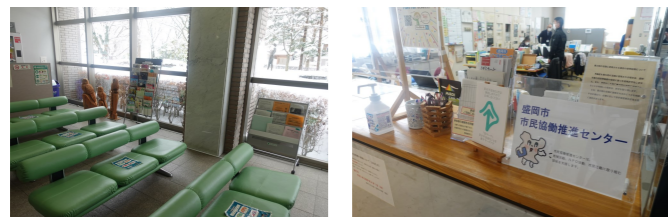
同イベントは従来雪をメインとしていた「松園雪あかり」の開催内容を今年からイルミネーションに焦点を当てたことで、松園地区の魅力が地区内外に発信される機会となりました。

同イベントは従来雪をメインとしていた「松園雪あかり」の開催内容を今年からイルミネーションに焦点を当てたことで、松園地区の魅力が地区内外に発信される機会となりました。

市民協働推進センターを知ろう！ 都南公民館編



町内会・自治会、NPO法人等の地域活動や市民協働を支援するために設置している市民協働推進センターの中から、今回は、都南公民館を紹介します！



都南公民館では、1階自動販売機付近に地域活動や市民協働に関する資料や助成金情報などを常に配架しています。（写真左）また、町内会・自治会等の団体の打合せ等の利用の際には、用途・人数に応じて、大小様々な部屋の貸出を行っています。借用を希望される際には、一度、ご相談ください。

都南公民館に併設している都南文化会館（キャラホール）では、盛岡市内等で活動する団体の各種イベントが行われています。この機会にぜひ、都南公民館を訪れてみてください！

イベント情報



10月14日（金）～16日（日）の3日間にわたって、「都南公民館まつり（都南芸術祭）」が開催されました。同イベントは、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、3年ぶりの開催となりました。合唱・吹奏楽・ダンス・伝統芸能などの舞台部門、書道・華道・絵画・手芸などの展示部門のほか、スタンプラリー・工作教室・ベビーダンス・子どもあそびコーナーなどのイベントで盛り上がりました。来場者からは、「熱のこもった演奏が心地よかった。」との感想がありました。

Table with 10 empty columns and 1 row labeled '回覧' (Circulation).

つながるわ Vol.88 輪・和・WA... 発行：盛岡市市民協働推進課 〒020-8530 盛岡市内丸12-2 TEL：019-626-7535（直通）（令和5年2月発行）



大学生×地域コミュニティ ～「学生」と「地域」の可能性について考える～

令和4年度「地域活動担い手養成講座」の概要をご紹介します。市は、学生・地域それぞれの地域活動に対する思いを共有し、情報発信することで、「地域活動に興味がある学生」と「学生を地域活動に呼び込みたいと考える地域」がマッチングするためには、どのような仕組みが有効か検討する機会とすることを目的に同講座を実施しています。市公式YouTubeには、紙面で紹介しきれなかったエピソードも収録していますので、併せてご覧ください。



市広報ID 1041851

Table with columns for '出演者（敬称略）' (Cast), '座長' (Chairman), '話し手①' (Speaker 1), '話し手②' (Speaker 2), '話し手③' (Speaker 3), and '岩手大学三陸委員会ここより' (Iwate University Sanriku Committee).

注）動画は予告なく削除される場合があります。興味のある方はお早目にご覧下さい。

まずはお互いを知ろう



濱田 秀樹さん

濱田 盛岡市町内会連合会や青山地区まちづくり協議会は、小中学生や企業、商店会など、色々なところが参加する大きな取組をされていますが、照内さんはどのように感じますか？

照内 青山に行く機会が多いですが、こんなに多様な活動をされていると知りませんでした。すごくエネルギーを持って活動されている印象を受けました。また、町内会などの活動は毎年恒例というイメージでしたが、色々な属性の方を集めて次年度にやることを話し合い、模索されているのが印象的でした。

連合会や町内会の活動については、細かく分かれていて、地域の暮らしに根を張っている。自分が普通に暮らしている中でも、町内会の支援等の協力体勢が張り巡らされていたこと感じました。あとは、大学生が話題に出てこなかったところも、印象に残りました。

濱田 確かに大学生というと、アパートと大学の往復や、課外活動が主な活動範囲。地域との関わりが、課題でしょうね。このことについては、遠藤さんは、どう思われますか？

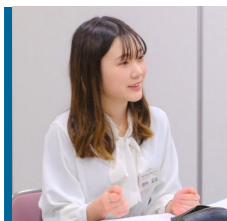
遠藤 町内会も含めて、子ども会や中学校の校外班という形でしか、なかなか関わりがございません。しかし、青山地区の「さくら祭り」では、当協議会関係者のご縁で、盛岡北高のボランティア委員会さんにも協力いただいています。また、地域にある警察学校の校長先生に相談し、生徒さん方に準備から片付けまでお世話になってございます。

私は消防団もやっているのですが、消防団では団員が少ない。しかし、地元の消防団は地域にどういる方がいるかよく知ってるので、災害時の要になります。大学生や専門学校生にも消防団に所属していただき、できる範囲で活動していただくといったことも、話し合いをして、お願いできればと思いました。

濱田 やはり、具体的取組を理解することが必要なのですね。増田さんはいかがですか？

増田 “ここより”さんが色々な事をされていると知り、こういう話を聞く機会をぜひ、作っていただきたいと思いました。子ども会は関わりがあるので、その中間部分がかめれない。そういう人たちに、声をかけてみたい。たとえば、道路が狭くて除雪車が入れない場所を何とかできないか模索しているのですが、地域で少しでもお金を用意して、大学生とか高校生とか、力のある人たち、そういう貢献しようと思っている人たちがいるのであれば、「ちょっと困っている人がいるのだけど、時間が取れたら手伝ってほしい？」という、声をかけられるシステム、ボランティアを募る仕組みを考えてみたいと思いました。

濱田 必要とする活動の中身を伺って、地域の方と大学のサークルなどを繋ぐような仕組み、一つの組織体があれば良いのかと思いますけれども、そのような取組をお考えであれば、教えてください。



畑内 愛佳さん

畑内 学生の中でも、ボランティアをしたいけれども窓口が無いとか、入り口が限られているとか、学生だけで運営するのは難しいという問題もあります。また、地域の方々が、どこにボランティアを要請すれば良いか分からないという問題もあります。そこで、「ボランティアセンター」を作ろうと考えています。今は、立ち上げチームが「学生と職員が運営をして、ボランティアをしたい学生と、地域の方などをつなぐ」という形を検討しています。主な業務は、ボランティアセンターの広告、ボランティアに参加したい人の名簿の作成、学内にあるボランティア団体の連携といった業務を考えています。



遠藤 政幸さん



増田 文男さん

“継続” “対等” “楽しむ気持ち” を大切に

濱田 色々なアイデアがでてきましたが、青山の災害公営住宅の支援を行う際など、実際に地域の方と活動していく上で“ここより”が心がけていることがあれば、ご紹介いただけますか？

渡邊 私たちはまず、“継続して取り組む”ということを大事にしています。コロナで入居者さんと会えない時期がありましたが、文通をしたりビデオレターを送ったりして、会えない中でもうんと交流することを心掛けました。そのおかげで「誰々が来るんだったら交流会に参加しようかな」という個人の繋がりができました。ほかには、“対等な立場”を意識しています。相互に教えてもらう、教える、みたいなことをしています。そして、一番は“自分がやりたいと思うこと”じゃないと続かないと思っています。だからこそ、入居者さんのことを考えつつも、私達がやって楽しいと思えるイベントを企画して、広報して、それがアパート（災害公営住宅）内だけじゃなく、地域の人たちがつながるきっかけにもなっていると思います。

濱田 青山地区の遠藤さんは、学生の活動に取り組む気持ちを聞いて、どう思われますか？

遠藤 学生さんたちの今考えている地域貢献という部分に、大変感銘を受けました。大人になっていく上で、絶対プラスになるのだらうと思っています。当地区では、イベントだけでなく、認知症の方々への声掛け訓練や防災訓練など、様々なことに取り組んでいます。こうやって学生さん方が関わってくれたり、覚えていただいたりということが、将来につながっていくと思いますので、コミュニケーションを図りながら、学生さん方と情報をキャッチボールしたいと思っています。

学生×地域のマッチング効果

濱田 学生が“その大学で学ぶ”のは重要ですけど、それ以外の“地域で学ぶ”ということも、キャリア形成の上で、重要な学びの場になると思っています。最後に、学生と地域がマッチングすることの効果をお聞きしたいと思います。

照内 学生視点では、人と関わらなくても、地域と関わらなくても生きていけるような感覚になるのですが、大人になると、地域の人と関わらないと生活していけない場面に直面する。なので、大学時代に地域の人と関わって活動するとか、地域を知る経験することで“市民力”を養うことが、将来世代が持続的に町内会とかを運営することにつながると感じました。また、学生は4年で変わる点が課題とされるかもしれませんが、それが逆に、地域の人が長年住んでいる中に新しい観点が入るとい、プラスに生きるのではないかと思います。そういった所が、学生と地域がマッチングする良さではないかと感じました。

遠藤 町内会活動や地域活動をしていると、組織の限られた方々しか関わってもらえない、役員のなり手など後継の方々になかなか出ただけにないという部分は、今後も課題として残りますけれど、学生の時に活動に関わっていただくことで、将来に期待ができると思いました。ぜひ、ボランティアセンターが出来て、町内会・自治会、まちおこしの団体等がお世話になることで、もっともっと、盛岡が素晴らしいまちに、活気に満ちたまちになっていくと期待したいと思います。

増田 高校生もそうですし大学生も、地域に住んでいるのであれば、その人たちの居場所みたいなものを、活動の中に位置づけるような工夫をしていきたいと思っています。緑が丘地区には岩手大学の学生寮もあるので、「学生さんも、こういうふういろんな貢献をしたいと思っているよ」という部分を組み入れた活動を、促すよう声かけをしていきたいと思いました。

濱田 こういった交流の場を作るのが、まず、重要かと思います。ここでは、世代とか立場の違う方々が交流を持って、中には価値観が違う意見が出てくるかもしれない。でも、そういったところも認め合いながら、一緒にモノを作っていくことが必要なかと思いました。

照内さんが、「若い世代が地域に入っているような活動をする」ということを「市民力を養う」とした表現、素敵な言葉だなと思いました。若い世代が入ることで、地域づくりの組織に、新しい風が入って活性化することを、まとめていただいた言葉だと思います。この講座をキックオフとして、より具体的に地域と大学がつながっていければと思っています。本日は、ありがとうございました。

